

【新年トップインタビュー】クリヤマホールディングスCEO 小貫成彦氏

会員限定 インタビュー New! 2024-01-29



2024年で創業85周年を迎えるクリヤマホールディングス。「2023年は100周年を見据えた成長戦略を熟考し、積極的に取り組んだ」と同社の小貫成彦代表取締役CEOは話す。2024年はオセアニア地域へのホース事業進出をチャンスの1つと捉えている。



■2023年を振り返って

2023年は、アフターコロナの事業戦略として「動（Be Active）」をモットーに、会社の100周年を見据えた成長戦略について熟考し、積極的に取り組んだ1年だった。新製品、素材開発に関する研究開発機関としてクリヤマR&D（以下、KRD）の設立準備や、物流機能の最適化に向けた北米本社物流拠点の移転拡張、DXの推進、人的資本投資の強化など、国内だけでなく海外との連携も取りながら「動く」ことを大切にできたと思う。

■2024年の経営方針

海外では、ホースメーカーとして事業展開しているが、国内でも商社を主体としつつ、メーカー機能を有し、多角的に事業展開している。今後は、グローバルベースで「モノづくり」に注力することで、事業領域を広げていくとともに、国内事業の成功例を海外で展開するなど、各事業の横展開を進めていく。そのためにも、KRD設立による研究開発の強化、DXの推進、人的資本投資の強化などに引き続き注力していく必要がある。

KRDについては、2024年1月に完全子会社化し、クリヤマホールディングス直轄の事業会社とした。KRD自体は事業を生まないが、グローバルベースで付加価値ある技術、製品、人財を生み出す研究・開発施設として、新規開発と事業との親和性促進を目指す。

また、北米市場は今後も成長が見込まれるため、国内のOEM事業のノウハウを活かし、北米における建機・農機市場での新規需要の獲得や、センサー技術の応用による事業領域の拡大などを目指す。

■目下の課題とその対応

課題の1つ目は国内事業の成功例を北米で実現させるプラットフォームの展開、2つ目は電動化に伴う関連部材や環境対策の新製品開発だ。1つ目については、日本で結果を出すことができた排ガス対応のためのセンサー技術を応用し、北米グループと連携することで、北米での事業領域拡大に繋げたい。

2つ目については、産業系の製品においてはリコールのリスクを避けるためにも市場調査や研究開発に時間をかけて慎重に進めている段階。建設系やスポーツ系の製品においては、環境対応製品の拡販を視野に入れ、新商材開発を進めている。新たな付加価値を提供できる製品を作っていかなければ、国内での展開は厳しいと考えている。いずれの課題においても、KRDが核となってくる。KRDを通して事業カテゴリーを横断した情報、技術の共有を行うことで、新製品や新機能の開発を強化しつつ、次世代への技術継承もしていく。

■2024年チャンスと捉えている事項

オセアニア地域におけるホース事業の拡大だ。当社は2024年1月にオセアニア地域の産業用ホース事業を担う子会社「Kuriyama Australia Pty Ltd.」を設立する予定。オセアニア地域の中心であるオーストラリアは、人口増加による底堅い経済成長が期待される。また、広大な土地と豊富な天然資源を背景に鉱業・オイルガス用ホース、農業・水産業をはじめとする産業用ホース、森林火災などに対する消防用ホースなど、幅広い分野でのホース需要が見込まれる。

一方で、都市機能が分散するが故に輸送コストや労働コストの抑制ニーズが強いことに加え、鉱業・オイルガス分野では海上や僻地など過酷な条件下でホースが使用されることから、修理・交換が頻発しない耐久性と操作性を有する高品質な製品が求められている。こうした点からも、オセアニア地域は、高付加価値製品・サービスで信頼を築き上げてきた当社が、事業拡大すべき魅力ある市場だと考えており、注力していきたい分野だ。

■2024年を表す漢字一文字

「笑 (Smile)」。2024年も、世界及び日本経済の先行きが不透明な状況が続くと予想される中で、ネガティブにならず、常にポジティブで色々なことに取り組むことを意識した言葉である。また、新年に、全社員に向けて「2024年は『Be Active with Smile』で1年を素晴らしい年にしていきま笑 (しょう)」と呼びかけた。

2024年1月29日付 ゴム報知新聞 NEXT 掲載【新年 TOP インタビュー】より
(提供：(株)ポスティコーポレーション)